

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

インドの生産減速は一服も、先行きは不透明 (Asia Weekly (7/9~7/13))

～豪州の雇用改善に頭打ちの兆候が出ている～

発表日: 2012年7月17日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
7/9 (月)	(中国) 6月消費者物価 (前年比)	+2.2%	+2.3%	+3.0%
	6月生産者物価 (前年比)	▲2.1%	▲2.0%	▲1.4%
	(台湾) 6月輸出 (前年比)	▲3.2%	+2.3%	▲6.3%
	6月輸入 (前年比)	▲8.4%	▲1.5%	▲10.5%
7/10 (火)	(中国) 6月輸出 (前年比)	+11.3%	+10.6%	+15.3%
	6月輸入 (前年比)	+6.3%	+11.0%	+12.7%
7/11 (水)	(韓国) 6月失業率 (季調済)	3.2%	3.3%	3.2%
	(マレーシア) 5月鉱工業生産 (前年比)	+7.6%	+4.6%	+3.2%
7/12 (木)	(韓国) 金融政策委員会 (政策金利)	3.00%	3.25%	3.25%
	(豪州) 6月失業率 (季調済)	5.2%	5.2%	5.1%
	(インド) 5月鉱工業生産 (前年比)	+2.4%	+1.8%	▲0.9%
	(インドネシア) 金融政策委員会 (政策金利)	5.75%	5.75%	5.75%
7/13 (金)	(シンガポール) 4-6月期実質 GDP (前年比/速報値)	+1.9%	+2.3%	+1.4%
	5月小売売上高 (前年比)	+0.5%	+2.6%	+2.1%
	(中国) 4-6月期実質 GDP (前年比)	+7.6%	+7.7%	+8.1%
	6月鉱工業生産 (前年比)	+9.5%	+9.8%	+9.6%
	6月小売売上高 (前年比)	+13.7%	+13.4%	+13.8%
	1-6月固定資産投資 (前年比)	+20.4%	+20.0%	+20.1%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[インド] ～5月の生産は3ヶ月ぶりに加速。ただし、先行きには調整圧力が高まる懸念が燃る～

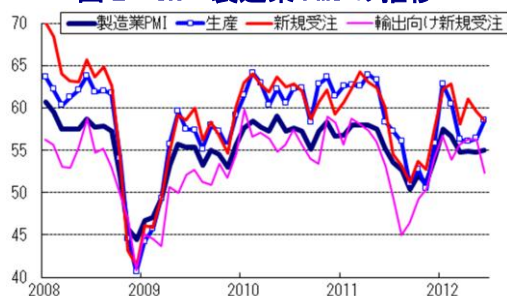
12日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比+2.4%となり、前月(同▲0.9%)から改善して3ヶ月ぶりに前年を上回った。前月比も3ヶ月ぶりに増加しており、これまで低調に推移してきた鉱業部門や製造業などでも軒並み生産が拡大している。財の種類別でも、低迷してきた基礎財のみならず、中間財や消費財など全般的に生産拡大の動きがみられる。6月の製造業PMI(購買担当者景況感)は55.0と前月(54.8)から+0.2p上昇しており、生産(58.5)は2ヶ月連続で増加したものの、先行指数である新規受注(58.5)や、輸出向け新規受注(52.3)はともに悪化している。受注残(51.5)も低下しており、6月は生産拡大が期待される一方、7月以降に調整圧力が高まることが予想される。

図1 IN 鉱工業生産の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 IN 製造業PMIの推移



(出所) Markit より第一生命経済研究所作成

[豪州] ～雇用の改善に頭打ちの兆候が窺われ、先行きは内需の減速を理由に追加利下げの可能性も～

12日に発表された6月の失業率(季調済)は5.2%となり、前月(5.1%)から0.1p悪化した。雇用者数も前月比▲2.7万人と4ヶ月ぶりに減少しており、非正規雇用者数は同+0.7万人と前月(同▲0.9万人)から増加に転じた一方、正規雇用者数が同▲3.4万人減少したことが全体を下押ししている。失業者数も前月比+0.7万人と前月(同+2.1万人)に続いて増加しており、正規雇用者数の減少が影響している。なお、鉱業部門が集積するウェスタン・オーストラリア州は好調を維持しており、分野ごとの跛行色は拡大している。金融当局は国際金融市場の混乱による世界経済の減速を懸念し、今年5月以降2ヶ月連続で利下げを実施した。当局は今月の定例会合において、個人消費をはじめとする内需が比較的堅調であることを理由に金利を据え置く決定を行ったものの、大幅利下げにも拘らず雇用の改善が頭打ちしつつあることが示された。先行きについては、内需の減速懸念を理由に追加利下げに踏み切る可能性も出てきたと判断される。

図3 AU 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 AU 政策金利の推移

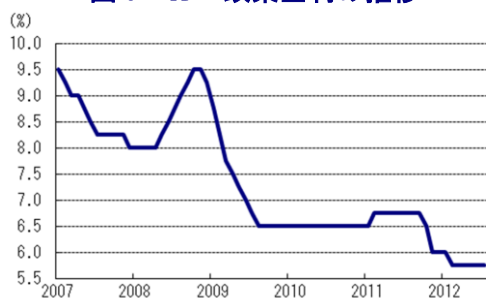


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[インドネシア] ～世界経済の減速で外需の下振れ懸念は熾るが、政策金利を5回連続で据え置く～

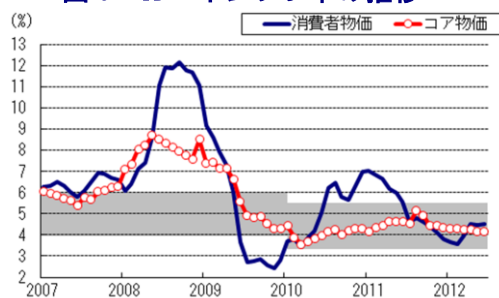
12日、インドネシア銀行は定例の金融政策委員会を開催し、政策金利を5回連続で5.75%に据え置く決定を行った。6月の消費者物価は前年同月比+4.53%、コア物価も同+4.15%となり、ともに当局のインフレ目標(2.5~6.5%)の範囲内に収まるなど、足下の物価は落ち着いており、燃料補助金削減の可能性は熾るものの、当局は先行きもインフレ率は目標の範囲内に留まるとの見方を示している。世界経済の減速感が強まっていることを背景に国際商品市況は調整しており、これもインフレ圧力の後退に繋がっている。一方、世界経済の低迷による外需の減速は同国経済の重石になっており、景気はこれまでの見通しに比べて下振れするとの見方を示した。足下の経常収支は悪化しており、通貨ルピア安の進行に繋がったものの、年後半には輸出の回復に伴って回復が見込まれ、当局による外貨供給策も通貨の安定を促すとしている。当局は先行きも通貨安定を通じて物価の抑制を図るとしており、現行水準で金利を据え置く可能性は高いと見込まれるが、当局による外貨供給策にも拘らず足下の為替レートは年明け直後の水準を大きく下回っており、輸入物価の上昇に繋がるリスクは熾ることから、遅くとも年明け以降は金融政策の見直しが必要になると思われる。

図5 ID 政策金利の推移



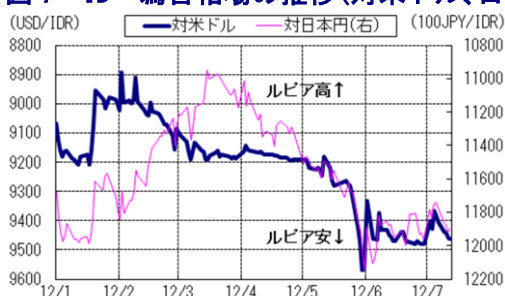
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 ID インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図7 ID 為替相場の推移(対米ドル、日本円)



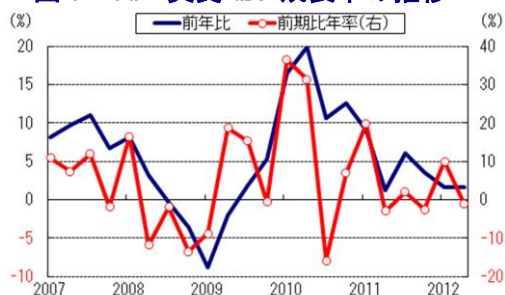
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール] ～世界経済の減速により製造業は減速したが、内需関連を中心に底堅さも窺われる～

13日に発表された4-6月期の実質GDP成長率(速報値)は前年同期比+1.9%となり、前期(同+1.4%)から加速した。ただし、前期比年率ベースでは▲1.1%と前期(同+10.0%)の反動でマイナス成長に転じている。分野別では、世界経済の減速による輸出の頭打ちを背景に製造業の生産は前期比年率▲6.0%減少しており、景気の重石になっているものの、住宅需要の堅調や大型プロジェクトの進捗などを背景に建設部門は同+0.3%と辛うじてプラスを維持。さらに、足下の堅調な雇用を反映してサービス部門も同+0.4%とプラスで推移しており、内需に底堅さが窺われる。

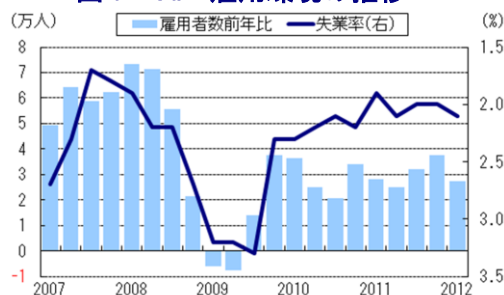
同日発表された5月の小売売上高は前年同月比+0.5%となり、前月(同+2.1%)から減速した。前月比も▲2.7%と前月(同▲0.9%)に続いて減少しており、月次の変動幅が大きい自動車を除いたベースでも同▲3.3%と4ヶ月ぶりに減少している。世界経済の減速による不透明感を背景にデパート売上高が減少しており、高額消費に手控えの動きがみられるのみならず、スーパーマーケット売上高も減少しており、消費全般に下押し圧力が掛かっている。足下では金融市場の混乱に一服感が出ており、先行きは消費マインドの回復も予想されるものの、しばらくは低調に推移する可能性もある。

図8 SG 実質GDP成長率の推移



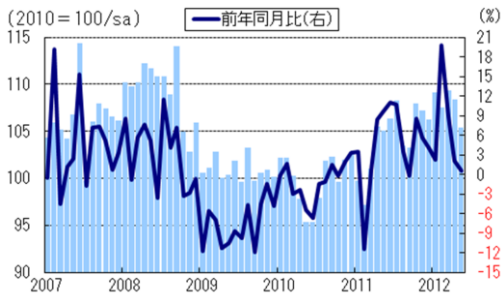
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 SG 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 10 SG 小売売上高の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア] ～足下の輸出拡大を背景に生産は底堅いが、先行きについては減速基調が見込まれる～

11日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比+7.6%となり、前月(同+3.2%)から加速した。足下における輸出の拡大を反映して、前月比も3ヶ月ぶりに増加している。分野別では、アジア新興国における資源需要の頭打ちを反映して鉱業部門は伸び悩んでいるものの、製造業の底堅い生産が全体を押し上げている。ただし、先行きは欧州を中心に先進国の景気低迷が見込まれる上、中国向けも景気減速を背景に需要の鈍化は避けられなくなっており、減速基調が続くと予想される。

図 11 MY 鉱工業生産の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 12 MY 輸出額の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[韓国] ～失業率は横這いだが、輸出の伸び悩みを反映して雇用調整圧力は高まりつつある～

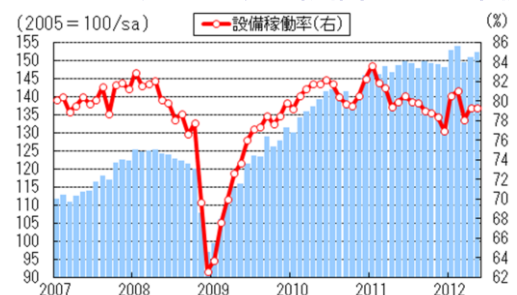
11日に発表された6月の失業率(季調済)は3.2%となり、前月と同じであった。失業者数は前月比▲0.5万人と4ヶ月連続で減少している。一方、雇用者数も同▲4.8万人と5ヶ月ぶりに減少しており、非正規雇用者を中心に雇用の調整圧力が強まっており、足下の世界経済の減速を反映して輸出や生産が伸び悩んでいることが影響している。

図 13 KR 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 14 KR 鉱工業生産と設備稼働率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾] ～輸出を取り巻く環境は厳しい中、原油市況の低迷や内需鈍化を反映して輸入の減少も続く～

9日に発表された6月の輸出額は前年同月比▲3.2%となり、前月(同▲6.3%)からマイナス幅は縮小した。ただし、前月比は▲0.4%と前月(同+1.6%)から減少に転じており、最大の輸出相手である中国向けのほか、欧米や日本など先進国向けも軒並み頭打ちして伸び悩んでいる。足下の輸出受注は伸び悩んでおり、しばらくは厳しい状況が続くと予想される。一方の輸入額も前年同月比▲8.4%と前月(同▲10.5%)からマイナス幅

が縮小している。ただし、前月比は▲2.7%と前月（同▲4.4%）に続いて減少しており、原油市況の低迷を反映して中東諸国からの輸入額が減少したことに加え、足下の内需の減速により中国本土をはじめとするアジア諸国からの輸入額も減少している。結果、貿易収支は+25.76億ドルと前月（+22.63億ドル）から黒字幅が拡大した。

図15 TW 輸出入(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図16 国際原油価格(ドバイ原油)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上